

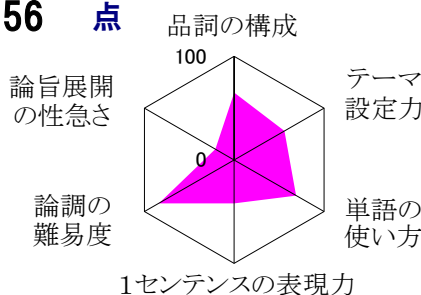
〇〇 様

# 文章表現力&書き方測定結果

ID// タイトル// 文章分析の始まり

## 文章表現力測定総合点 56 点

- 品詞の構成 65 点
- テーマ設定力 56 点
- 単語の使い方 69 点
- 1センテンスの表現力 42 点
- 論調の難易度 84 点
- 論旨展開の性急さ 21 点



基本測定項目は16種類あります。理想的な適正値は5.0で、この値を中心にして許容範囲の測定値は4.0~5.5になります。

測定値が5.5より大きくなると、こだわりが強かったり、しつこい表現の文章となり、4.0より小さくなると意味が曖昧になっている文章となります。

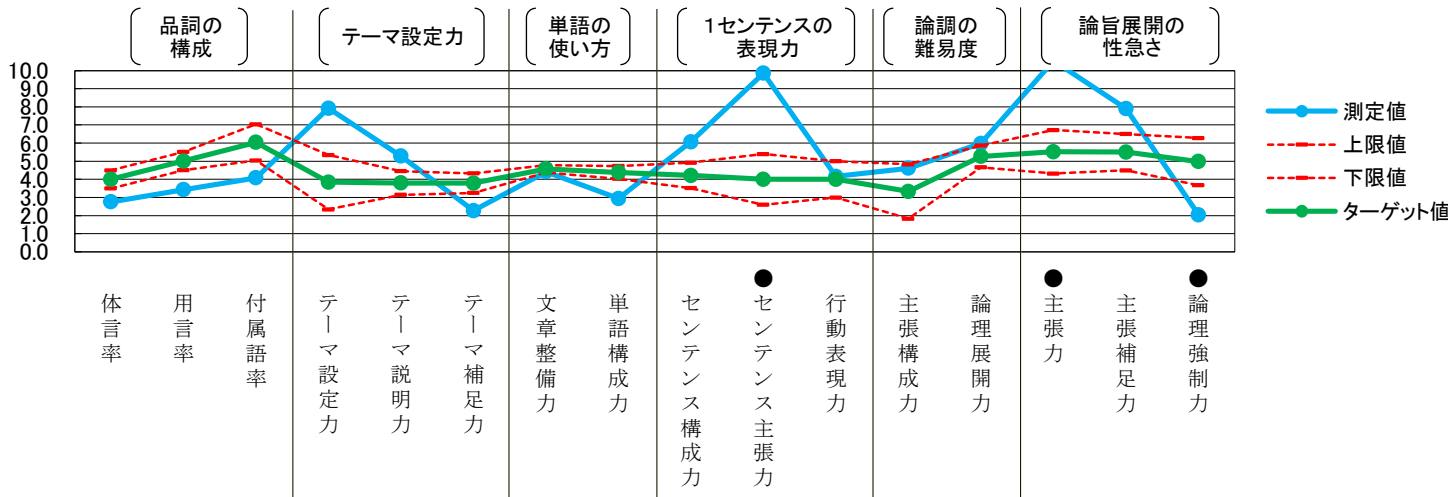
許容範囲より大きく外れていた項目は、下記の3項目でした。改善策を参照してください。  
この改善策では、日頃の会話の習慣を改善する事でも、文章表現が身に付きやすくなるようにしています。

**主張力**  
あなたの「キーワード群」で表されている最初の単語が至る所で使われています。減らすようにしましょう。他の単語に置き換えるか、センテンス自体を違う表現に変えましょう。多くなり過ぎるとその単語だけが読者の印象に残ってしまい、肝心の論理展開が薄れてしまいます。表現をする前に、論旨の中心になる単語を3つほど決めてから表すようにしましょう。伝わり易くなるだけでなく、書き易くなるはずですよ。

**センテンス主張力**  
1センテンスの文字数が多くなって、表現意図が分かり難くなっています。まず、1センテンスの文字数を40文字以内にするように心掛けてください。修飾語、修飾節の使い方に注意しましょう。修飾節はできるだけ減らすようにしましょう。無意味の接続助詞「が」をなるべく使わないようにしましょう。1センテンスを40文字以内にするとう文章が簡潔になります。ご自身の考え方の整理にも役立つはずですよ。

**論理強制力**  
説得姿勢を強く表現するよりも、読者に考えてもらうようにする方が説得性があります。但し、投げやりな形で読者に任せきるのはよくありません。あなたの文章は主張するところで淡々として抑揚に乏しくなっています。中心になる単語、補佐する数単語を決めましょう。書かれた文章を読み直し、中心になる単語群がまとまっているかを確認しましょう。単語群のまとまりが大切です。修正ではなく、書き直しましょう。

縦軸：測定値  
横軸：基本測定項目(16項目)  
上限&下限値：同じ人の文章でもブレ幅があり、ブレ幅の理想限度を表したのが上限値と下限値です  
ターゲット値：読みやすい、分かりやすい、表現に無理のない文章としての目標測定値です



基本測定項目	測定値	測定内容
1 体言率	2.8	文章で使われている全体の単語に対しての名詞、副詞の割合を示しています。
2 用言率	3.4	文章で使われている全体の単語に対しての動詞、形容詞の割合を示しています。
3 付属語率	4.1	文章で使われている全体の単語に対しての助詞、助動詞の割合を示しています。
4 テーマ設定力	7.9	言いたいことを単語に置き換えたときの単語群を表しています。
5 テーマ説明力	5.3	言いたいことの説明、論証を補強する単語群を示しています。
6 テーマ補足力	2.3	言いたいことの根拠、原因、理由などの具体的な例を示しています。
7 文章整備力	4.4	文章表現の基本で全体の文字量に対しての意味のある単語の割合を示しています。
8 単語構成力	2.9	使われている意味のある単語の重複率を示しています。
9 センテンス構成力	6.1	センテンス全体の文字数の平均を表し、1センテンスで言いたいことの強さを示しています。
10 センテンス主張力	⇒ 9.9	最も言いたいことを表現した1センテンス(一文)の主張の強さを示しています。
11 行動表現力	4.2	1センテンス(一文)で表現されている、行動を表している単語の出現率を示しています。
12 主張構成力	4.6	言いたいことを構成している単語量からの主張の複雑さを示しています。
13 論理展開力	6.0	言いたいことを伝達するときの分り易さ、丁寧さを示しています。
14 主張力	⇒ 10.5	文章の中で、最も中心になっている単語の強さを示しています。
15 主張補足力	7.9	言いたいことの特徴を表している単語の集まりの強さを示しています。
16 論理強制力	⇒ 2.0	言いたいことを相手に説得しようとする姿勢の強さ、丁寧さを示しています。

▼ センテンスの数は: **28** センテンス      ▼ 最も長く書かれたセンテンスの文字数は: **84** 文字  
 ▼ 60文字以上で書かれたセンテンス数は: **5** センテンス      ※文字数が多い場合は掲載されない個所があります。

長いセンテンス

- 表現についての基準、内容についての基準、姿勢・意識についての基準、論理上の基準など、様々な基準が存在し、表現形式の基準でも、論文、評論、エッセイ、小説等々の基準がある。 — 文字数は84文字でした。 —
- 文章を、もっと、簡単に、誰もが分かるように書け、酷い時は「サルでも分かる」文章を書けと言うが、簡単であるとは如何なる意味だろうか。 — 文字数は65文字でした。 —
- 話し手と聞き手によって、簡単さ、簡潔さは違い、具体物について話す場合と、抽象的な話をする場合も、知識と理解度によって違ってくる。 — 文字数は64文字でした。 —

書き方テクニック

文章構成要素	測定数	適正範囲	判定
文字数	1008		
1 使用単語数	147	185 ~ 226	▼
2 センテンス数	28	25 ~ 32	○
3 名詞数	151	148 ~ 169	○
4 動詞数	113	69 ~ 86	▲
5 接続詞数	1	0 ~ 4	○
6 指示語数	2	0 ~ 4	○
7 副詞数	6	0 ~ 9	○
8 癖言葉数	0	0 ~ 5	○
9 長文数	5	0 ~ 4	▲
10 キーワード数	6	2 ~ 4	▲
11 語尾統一率	100 %	90%以上	○
12 否定語使用傾向	4 %		
13 漢字使用傾向	37 %		

判定: ▲:測定数が適性範囲より多い  
 ▼:測定数が適性範囲より少ない

否定語 打消助動詞”ない”と形容詞”ない・無い”、非、不の  
 使用傾向: つく単語(非常識・不可能)を測定しています。

繰り返し書かれていて  
 頻度の多い癖言葉:

■文体と語尾のバランス

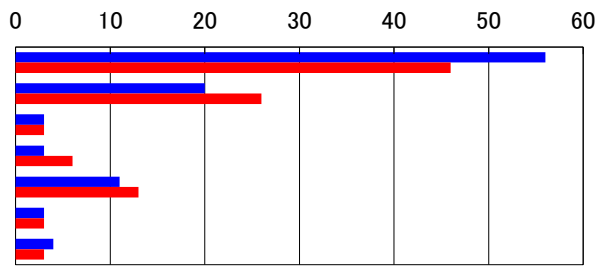
論文風	3.1	ですます調	0 %
エッセイ風	2.5	である調	100 %
小説風	5.0	体言止め	0 %

キーセンテンス

- あの人の文章は上手いとか、下手であるなどと言うが、その基準は、読み手の主観でしかない。
- 数値は、約束した基準があり、モノサシがあるが、言葉には基準が果たしてあるのか。
- 適切な文章は、文法にのっとった文章なのか。
- 文法は、言葉ができる前からあったのか、言葉の後からできたのか。
- 100万以上の文章を分析して、徐々に基準になる形態が見いだされてきた。

品詞の構成

品詞	理想的な構成比	あなたの構成比
名詞	56 %	46 %
動詞	20 %	26 %
形容詞	3 %	3 %
助動詞	3 %	6 %
助詞	11 %	13 %
副詞	3 %	3 %
その他	4 %	3 %



※その他は接続詞、連体詞、感動詞です。

■キーワード群

基準 文章 言葉 文法 簡単 違う

▼ 文章全体の文字の数は: **1008** 文字  
 ▼ あなたが使った単語の数は: **147** 単語  
 ▼ あなたのキーワード群の数は: **6** 単語  
 ▼ 望ましいキーワード群の数は: **5** 単語

■文章書き方測定の合計点

**81 点**

- 一文での名詞数を過不足のないように書く **0 点**
- 動詞、形容詞は、名詞に対してバランスよく書く **6 点**
- 副詞などのあいまいな言葉は、できるだけ減らす **10 点**
- 「そして、しかし」などの接続詞は、できるだけ減らす **10 点**
- 「こそあど」などの指示語は適切に使う **10 点**

- ※得点は10点満点です。6点以下の項目は特に注意してください。
- できるだけ漢字で書く **7 点**
- 「ですます・である調」は統一して表現する **10 点**
- 「こと」「もの」などは、できるだけ使わないで書く **10 点**
- 一文は、できるだけ40文字以内で書く **10 点**
- テーマの中心になる単語を決めてから書く **8 点**

# 測定項目の説明

■長いセンテンス	文章には短い文も、長い文もあります。1センテンス(一文)が長すぎると意味が読み取り難くなります。逆に短すぎても、意味が単純になり、気持ちが表れ難くなります。読み易く、相手に伝わり易い1センテンス(一文)の文字数は40文字が適正となります。
■書き方テクニック	表内の項目は文章を読みやすくするための大切な要素になっています。それぞれの項目が適正範囲になっているほど読みやすくなります。あなたの文章をさらに良くするために参考にして下さい。
■文体と語尾のバランス	文章を書く時、人には表現の癖があります。論文がいつのまにか小説風になる事もあります。目的に応じた文章を書く為に、自分の文体の癖を知っておく事が大切です。文末も統一されている方が読み易く、文意もつかみ易くなります。
■キーセンテンス	読んだ後に印象に残りやすい文が示されています。あなたが書いた文章で、言いたかった、伝えたかった内容が示されているか確認して下さい。文字数が多い場合は掲載されない箇所があります。
■品詞の構成	幼い子ども、大人も、天才も、賢い人も、全くそうでない人も、皆が一緒に、同じテーブルで話し合った事を測定してみると表内の理想的な構成比になってしまいます。この構成比率こそ、意識が通じ合う言語コミュニケーションなのです。
■キーワード群	文章の中で特に言いたい事柄を複数の単語で示したものをキーワード群としています。相手に伝わるような文章にするには、使われた単語の総数の約4%の単語がキーワードとして書かれているのが望ましい文章となります。形容詞と動詞は終止形で、10単語まで掲載されています。

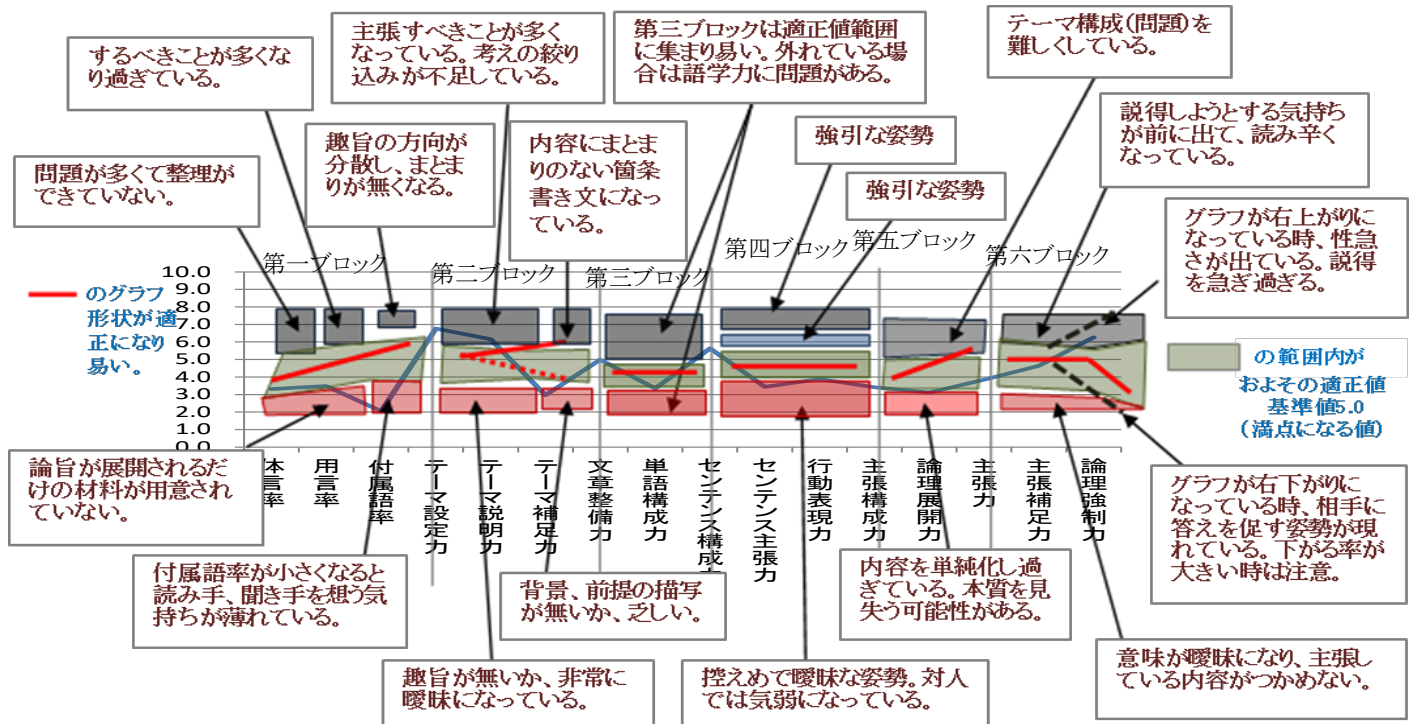
## 文章の心電図(測定値グラフ)

文章分析は言葉を素材にした分析です。文章の作者の表現、思考形態を一つの折れ線グラフで表しています。グラフは16の測定値で表されています。グラフ形状を並べて見ると人材の特徴の違いが良く分かるはずですが。

### ■測定値の意味とブロック別グラフ形状

表現された文章を、16の項目測定値で表し、作者の表現&思考状態を視覚化しています。グラフ形状が人材のテーマに対しての姿勢、特徴を表しています。一人の人材が、いくつもの文章を書いたとしても、類似したグラフ形状になると分かっています。グラフの測定値と形状の意味は、膨大な文章データの分析統計から、人材の特徴とグラフ形状の関係が求められました。

データの取り方、分析値の計算の仕方によって、16の分析値項目が第一～第六の六つのブロックに分類されています。測定値4.0～6.0の場合は、表現、論旨等が適正にまとめられています。6.0より大きくなると、こだわりが強くなり、他の意見を受け入れにくくなる傾向があります。逆に、4.0より小さくなると、曖昧さが出て、他の意見に影響されやすくなる傾向があります。



### ■グラフのブロック単位の形状には次の種類がある



六つの各ブロックは3つまたは2つの分析値で構成されています。一つのブロックは、同種のデータを取り、グラフの形で、表現&思考タイプがあるのが分かりました。第一、第二、第四、第六ブロックは分析項目が3種類あり、上図のように

グラフ形状が9種類あります。第三、第五ブロックは2つの分析項目があり、グラフ形状は右上がり型、水平型、右下がり型の3種類があります。グラフ形状の例を挙げておきましょう。第一ブロックは体言率と用言率、付属語率で構成されています。分析値が右上がりになる人は対人性の高い人になり、山型になると、指示をする傾向が強くなっています。第二ブロックが、右下がりであれば、自身だけが納得して、相手も納得しているつもりになっています。右上がり型は、趣旨をつかんでおらず、分かったつもりになっています。第5ブロックの左の分析値が4以下で右上がりになっている場合は、問題を簡単にしてしまう傾向があります。分析値によって状態のレベルは変わりますが、人材を認識するための一つの指針になっています。

## ファーストステップの添削ポイント(測定に不要な記号等は抜き取って掲載しています)

■60文字以上の文章は、文字色を変えています。40文字以内で書くようにしましょう。

< >内は接続詞、( )内は指示語もしくは連体詞です。【 】内は癖言葉です。できるだけ無くすようにしましょう。

箇所内の文は、読んだ後に印象に残りやすい、言いたかった、伝えたかった内容が書かれている文章です。

文字数	本文
12	数字は1、2、と数える。
63	数には基準があり、0と1の概念があって、メートル法があり、他にも様々な単位があり、分野や目的に応じて、組み合わせて使っている。
59	言葉は日常に使われていて、言語の共通はあるが、果たして表現する【ため】の基準は存在しているのだろうか、【私】は【思っ】てしまう。
43	(あの) 人の文章は上手いとか、下手であるなどと言うが、(その) 基準は、読み手の主観でしかない。
63	文章を、もっと、簡単に、誰もが分かるように書け、酷い時はサルでも分かる文章を書けと言うが、簡単であるとは(如何なる)意味だろうか。
26	ソクラテスは大工に話すには大工の言葉を使えと言った。
46	簡単に、分かり易くと表現するよりも、ソクラテスの言葉を(そのまま) 引用するのが最適であるようだ。
64	話し手と聞き手によって、簡単さ、簡潔さは違い、具体物について話す場合と、抽象的な話をする場合も、知識と理解度によって違ってくる。
14	経験した【こと】によっても違う。
39	数値は、約束した基準があり、モノサシがあるが、言葉には基準が果たしてあるのか。
21	適切な文章は、文法にのっとった文章なのか。
29	文法に忠実に従った文章はみんな上手い文章になるのだろうか。
31	文法は、言葉ができる前からあったのか、言葉の後からできたのか。
53	もし、文法が言葉の後からできたとしたら、文法にのっとって表すのが最適であるのかと問えば、(これ) はノーである。
54	言語学者に聞くと、(その) 時、最も多く使われている使い方が正しいのだと言うが、一つの見方でしかないのではないか。
11	言葉は、変化していく。
28	環境、表現ツール、立場、人との関係によって使い方が違う。
28	< だが >、一つの言語には、一つの言語の基準があるはずである。
38	文章の上手い下手に関わらず、老若男女に関わらず、みんなの共通する言葉がある。
13	(これ) が、第一の基準である。
26	(この) 基準は、(如何なる) 意味の基準であるかは定かでない。
41	表現される対象、目的などについて、限定された範囲でしか通用しない基準かもしれない。
64	老若男女の共通する表現を基準にして、すべての表現を比較する【ため】の基準とし、他の基準を見いだす【ため】に発展させていくべきではないか。
83	表現についての基準、内容についての基準、姿勢意識についての基準、論理上の基準など、様々な基準が存在し、表現形式の基準でも、論文、評論、エッセイ、小説等々の基準がある。
56	文章を読めば、小説なのか論文なのかが分かるが、何を持って小説としているのかを明らかにしなければ基準にはならない。
19	今までに多量の文章の分析を重ねてきた。
35	100万以上の文章を分析して、徐々に基準になる形態が見いだされてきた。
45	現在では、文体だけでなく、意味ジャンル、職種、文化、価値観などが見いだされるようになった。